

平成28年度を振り返って

平成3年に開園した自然博物館は今年度25周年を迎えました。自然博物館がある西川町志津は、冬になるとネイチャーセンターが雪に覆われる程の豪雪地、この地で四半世紀を耐えて来ました。自然博物館もブナの生き方を学びたいところですが、人工物である建物には難しく、ネイチャーセンターの老朽化は進み、機械設備も毎年入れ替えがあります。それでも、ネイチャーセンターを訪れた方からは「静かできれい」「森に包まれて安心する」と言った言葉を頂きます。また、ブナの森では「気持ちいい！」が、老若男女問わず最も多く口にする言葉で、この言葉を頂くことが我々スタッフの一番の喜びであり、「また来たい」と思って頂ける様に、ブナの森の素晴らしさを感動とともにお伝えするために日々活動しています。

今シーズンは、気候の不安定な日が多く、5～6月は気温が低く7月のホタル乱舞の時期になっても寒い雨の日が続きました。8月初旬には暑さを感じることもありましたが、お盆過ぎにはまた不安定な天候に戻り、そのまま紅葉の時期を迎えました。水分を含んだ腐葉土からは、色とりどり様々な種類のキノコが出揃ったのが印象的な秋となりました。また、右図のハナヤスリタケは開園後初めて見つかったキノコで、土中のツチダンゴに寄生する珍しい冬虫夏草の一種であることがわかりました。更に、子実体が3mmに満たない冬虫夏草マユダマドリバエタケを初めて見つけたことや、ヒメボタルの幼虫が発光している様子を観察できたことなど、初めてづくしのことが多くあった1年でした。これまで、雄大なブナの森が故、足元に生きる生物や小さな現象に気づかずにいた節も否めません。自然には、当たり前前に動植物が棲息し、見えないところにも沢山の当たり前が存在しているのです。これらの生き物全てが織りなす生態系の素晴らしさに出会える場所がブナの森です。何気ない自然の中に、動植物の一生懸命生きる姿を見つけることができる多様なブナの森は、いつも新鮮な魅力で溢れています。

(山形県立自然博物館 真鍋雅彦)



子実体の頭部を地上に出すハナヤスリタケ
ハナヤスリタケ *Cordyceps ophioglossoides*



ツチダンゴ *Elaphomyces granulatus*

平成28年度自然博物館利用状況

(単位:人)

		5月	6月	7月	8月	9月	10月	合計
個人利用	一般	1,213	565	642	687	542	1,053	4,702
	高校生	3	4	0	4	10	27	48
	中学生	11	1	5	10	5	4	36
	小学生以下	119	26	65	216	40	60	526
	小計	1,346	596	712	917	597	1,144	5,312
団体利用	一般	350	298	496	167	252	280	1,843
	高校生	0	1	20	42	171	60	294
	中学生	177	3	0	44	169	54	447
	小学生以下	196	508	468	56	181	190	1,599
	小計	723	810	984	309	773	584	4,183
(団体数)		(21)	(23)	(28)	(8)	(17)	(18)	(115)
合計		2,069	1,406	1,696	1,226	1,370	1,728	9,495

※利用者数は、ネイチャーセンターの利用者受付簿に名前を記入した来園者の人数です。